

地方独立行政法人福岡市立病院機構  
令和6年度第8回理事会 議事録（要旨）

- 日 時：令和7年1月22日（水）15:55～17:20
- 場 所：こども病院 講堂
- 出席者：堀内理事長（議長）、楠原副理事長、瓜生理事、神坂理事、平田理事、  
近藤監事、柳澤監事 [欠席：石橋理事]
- 議 事

1 両病院における経営改善活動等について

<概要>

両病院における経営改善活動等についての説明を事務局より行った。

<主な意見等>

特になし

【審議事項】

1 議案第14号 第5期中期計画について

<概要>

第5期中期計画について、事務局より説明を行い、原案どおり可決された。  
(前回理事会報告時からの主な変更点)

- ・11月理事会後に評価委員や福岡市の意見等を踏まえた文言修正
- ・中期目標に併せた文言修正
- ・令和6年度決算見込を反映

<主な意見等>

- どちらの病院もとても努力をしているように見えるが、市民病院は数値的には4年後には黒字となるようになっているが、増収して減益となっているサイクルをどこかで変えないと、現実的なのかと疑問である。以前、材料費のことで、コロナで多く使用し材料費が多額になっていたが、コロナが少なくなり患者数は減少したけれども、材料費はほとんど変わらなかったということを知った。現在、削減に向けて機構全体で取り組んであるが、更なる削減に向けて色々とチェックしていただきたい。また、救急患者の増加についての分析はしているのか。
- 診療材料費については、今年度、既に縮減を行っており、両病院の共通品目や同種同効品についてかなり厳しく調べて3千数百万円の削減を行った。今後、両病院で同じものを購入した際のボリュームディスカウント等による削減を進めていきたい。また、医療器具などについて診療科の医師にも入っていただき、価格交渉を進めていきたい。少しでも診療材料費を下げたい。  
また、救急については、現在、福岡市内でも増加しており、コロナの第8波の時の救急が逼迫した時とほぼ同じ状況になっている。4回以上断られ、かつ30分以上お待たせする搬送困難例が福岡・糸島医療圏の全救急の10%を超えている。市民病院も西区の今宿から他院から次々に断られて来られることや、逆に東の方から西へ行かれる例もあると思うが、福岡市がそのような状況にあり、市民病院としてはできるだけ患者を受け入れるようにしており、特にインフルエンザや今はコロナが少しずつ増えてきているのに加えて、寒い冬で脳血管による救急搬送などで12月の病床稼働率は90%近くで、本日も91～92%であるがどんどん受け入れている。感染症が増えているのは一つの大きな要素であろうと思っている。
- インフルエンザなどであれば診療単価はあまり高くないのではないかと、また、稼働率については高齢者が入院するとなかなか帰れなくなる方が多いのか。
- おっしゃるとおりで、例えば高齢者がインフルエンザで入院してきて、インフルエンザは治ったが、そのまま寝たきりになり動けない、その方を受け入れる所がないと病床稼働率は上がるが

診療単価は下がる。救急病院としては症状の重い方を受け入れたいので、他の病院ではインフルエンザやコロナの救急患者は市内の有力な病院でも受け入れないようにしている病院がある。受け入れると院内での隔離など面倒となることや、ご高齢でのインフルエンザやコロナの患者は寝たきりになって動けなくなる可能性があるため敬遠されるが、市民病院はそういうわけにはいかないため、感染症でも中等症以上の方は当然に受け入れているので、そうすると診療単価は落ちてしまう。その後コロナやインフルエンザが治まったときに患者の流れが変わってしまって、通常の救急の方、感染症ではない方の流れがコロナ等をとらなかった病院に流れているような状況になっている。なかなか市立病院であるため誘導ができない。

- そのようなことをこれまでの貢献というところでアピールして、市民病院がないと困るということになっているから、そのようなことを知っていただく必要がある。九大の病院経営の専門の方を入れて分析を依頼することはとても良いことだと思うが、分析材料として救急や稼働率は増えている状態であれば経営はすごく良くなっていると思ったら、逆に職員の給与費の増など費用の増加によりプラス、マイナスでマイナスになったということだと思う。職員の処遇改善は国の方針もありそれが下がることはないので、今後はそれ以上の増収を図るなどしないとなかなかプラスに転じられるのかと思い質問した。それぞれに戦略会議などでデータをきちんと提出して、どこに問題があるかという分析を、コンサルを入れて進めるとのことで、差し当たってのポイントとしては新病院だと思うので、そこに向けて努力しても困難であるというところと、どこの病院も受け入れたがらない患者を受け入れていることについてアピールをして、活かしたらいいのではと思う。
- 現在の200床の病院では生き残っていくにはサイズ的には非常に厳しいなと実感している。感染症で10数床確保した場合に、その後通常の診療に戻ったときにその10数床は200床にとっての10数床と、例えば500床にとっての10数床ではダメージが全く違う。ただ、そのような言い訳は通用しないと思っているので、とにかくどうか頑張っていかなければいけないと思っている。そのためには、外部の九大の先生のご意見等をお聞きして、より客観的に職員の方々に方針を伝えていきたい。

## 2 議案第15号 使用料等に関する規程の一部改正について

### <概要>

規程改正について事務局より説明を行い、原案どおり可決された。

### (改正の内容)

- ・ 福岡市立子ども病院周産期センターにおいて実施している分娩に関する分娩料及び分娩介助料について福岡市内の他の周産期センターとの均衡を図る必要があること、また、流産、早産、子宮内感染症となりうる原因菌を検出する膣内細菌検査の料金設定が必要であることから、地方独立行政法人福岡市立病院機構使用料等に関する規程の一部を改正するもの。

### <主な意見等>

特になし

## 【報告事項】

### 1 第5期中期目標について

#### <概要>

第5期中期目標について、令和6年12月の市議会にて議決され、当機構に対して通知が届いたため事務局より報告を行った。

#### <主な意見等>

特になし

## 2 令和6年度決算見込について

### <概要>

令和6年度決算見込について、事務局より報告を行った。

### <主な意見等>

特になし

## 3 職員団体表彰（年末表彰）について

### <概要>

職員団体表彰（年末表彰）について、事務局より説明を行った。

（受賞内容）

《最優秀賞 1件》

○テーマ：能登半島地震被災地支援

受賞者：福岡市民病院 能登半島地震災害支援チーム

《優秀賞 7件》

○テーマ：CPTによる児童虐待事例への取組

受賞者：福岡市立こども病院 Child Protection Team

○テーマ：こどもアレルギーセンター講演会の開催

受賞者：福岡市立こども病院 こどもアレルギーセンター

○テーマ：看護の質向上に向けた小児専門看護外来の継続及び拡大

受賞者：福岡市立こども病院 看護外来

○テーマ：血管外科診療の取組とそのチームワーク

受賞者：福岡市民病院 血管外科チーム

○テーマ：紹介患者迎え搬送業務の開始

受賞者：福岡市民病院 紹介患者迎え搬送プロジェクトチーム

○テーマ：クリニカルパス運用の体制整備とパス適用率向上の取組

受賞者：福岡市民病院 クリニカルパス委員会と

5・6階病棟・手術室クリニカルパス担当者

○テーマ：肝臓内科の取組

受賞者：福岡市民病院 肝臓内科

《努力賞 1件》

○テーマ：看護部も病院経営に参画するぞ！！コスト削減を目指した取組

受賞者：福岡市立こども病院 看護部

### <主な意見等>

特になし

## 4 福岡市病院事業運営審議会について

### <概要>

令和6年12月20日に開催された福岡市病院事業運営審議会について

- ・運営・施設部会からの中間報告
- ・今後の審議の進め方

について、事務局より報告を行った。

### <主な意見等>

特になし